

イノベーションディストリクトとは何か？（SCI-Japan 翻訳）

著者: ジュリー・ワグナー、ブルース・カツツ、ローラ・ビアンカツォ



<https://giid.org/articles/what-are-innovation-districts/>

まえがき（日本語版の配布に寄せて）

本稿は、The Global Institute on Innovation Districts（GIID）による“What are Innovation Districts?”の日本語訳です。私共、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートは、GIIDと日本のイノベーションディストリクトに関する調査・研究や推進について協働を進めており、本稿はその一環として翻訳されたものです。

日本では、いくつかのエリアがイノベーションディストリクトと似た特徴を示していますが、概念そのものの理解と実践は未成熟な段階となっています。本レポートは、日本のスマートシティ関係者の皆さまにイノベーションディストリクトの包括的な理解を提供することを目的とし、郊外のサイエンスパークやオフィスパークのようなより伝統的なモデルとどのように異なるかをお示ししています。

私共としては、本稿が日本のスマートシティ関係者の皆さまのイノベーションディストリクトに関する理解の一助となれば、大変嬉しく思います。

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲岳彦

イノベーションディストリクトとは何か？（SCI-Japan 翻訳）

著者：ジュリー・ワグナー、ブルース・カツツ、ローラ・ビアンカツォ

イノベーションディストリクトは、起業家と教育機関、スタートアップと学校、複合用途開発と医療イノベーション、シェアサイクルと投資資金—これらすべてを公共交通機関で結びつけ、クリーンエネルギーで駆動し、デジタル技術で接続し、カフェインで活気づける、究極の融合体で構成されている。

上記は、新たに台頭するイノベーションの地理——イノベーションディストリクト——を詩的に描写しており、それは『[The Rise of Innovation Districts](#)』という研究より引用されている。The Global Institute on Innovation Districts (GIID) のリーダーを務めるブルース・カツツとジュリー・ワグナーは、この報告書を共著した。イノベーションディストリクトは、最先端の拠点機関や企業に支えられ、研究開発（R&D）や高度な知識集約型活動を推進することが特徴である。また、その物理的なコンパクトさ、交通の利便性、強力なイノベーションインフラによって特徴づけられる。これらの地区は、構成要素の密度と近接性を活用し、協働とイノベーションを促進する。

この研究では、イノベーションディストリクトの台頭がマクロ経済的、人口動態的、文化的な動向の集合によるものであることが示された。『*The Rise of Innovation Districts*』は、公表からの10年間で政策や実践に影響を与え、世界中でイノベーションディストリクトモデルを定義・形成してきた。例えば、この報告書では次の点が強調されている：

- イノベーションを生み出すには、多様な起業家、思想家、専門家の関与が必要である。これには、最先端の技術、製品、サービスを市場向けに開発することに専念する高度に専門的で研究志向の関係者が含まれる。これらの人々は、複雑な技術や技術的プロセスを習得することに長けている。
- オープンイノベーションに向けて方向転換する経済は、企業がどこに拠点を構えるか、そして企業間の相互作用のあり方を変革している。研究開発に従

事する小規模な企業の台頭は、さまざまな規模の企業間でのコラボレーションを促進し、イノベーションの開発と進展を加速させている。

- イノベーションは、地区自体の経済構成と合わせて、多様な機関や個人によって育まれている。これには、異なる背景、教育レベル、専門分野を持つ関係者が含まれる。このような多様性は、才能の多様化を促進し、イノベーションのための豊かなエコシステムを育成する。
- イノベーションディストリクトは、経済におけるテクノロジーの役割が拡大する中で、新たな知識を交換するモデルの必要性から生まれた。イノベーションディストリクトの強みは、革新的なテクノロジーを発明・実証する役割だけでなく、製造や脱炭素化といった分野で加速する課題に対処する役割にもある。

ここ数年だけでも、技術の急速な台頭と進展は、イノベーションディストリクトが獲得している新たな競争優位の形を支えている。GIIDの分析によると、イノベーションディストリクトは量子コンピュータ、人工知能（AI）、ビッグデータ、ナノテクノロジーなどの先進的または実現技術に取り組んでいるため、高度に差別化されている。特に人工知能は、イノベーションに革命をもたらし、前例のない速さでブレークスルーを加速させている。地区に集積した技術に富んだ企業の増加は、これらの地域に「リビング・ラボ」としての優位性を与え、新しい技術やアプローチがより広い地域に展開できるようにしている。

21世紀におけるイノベーションの断片化かつ協力的な性質は、20世紀のモノカルチャー的なサイエンスパークでは提供できなかった多様性と近接性を必要とする。これらサイエンスパークは通常、都市の周辺に位置しており、イノベーションを促進するための自発的な交流やコラボレーションを生み出すために必要な密度や都市的な活気を欠いていた。都市部は、その本来の特性である密度、近接性、アクセスの良さがイノベーションの創出方法に変化をもたらすのに適している。

2014年以降、広範な実証研究、及び世界中の数十のイノベーションディストリクトへの関与が、地区の役割と重要性に関する考え方の進化を促してきた。『*The Rise of Innovation Districts*』が発表されてから10年を迎えた2024年、ブルース・カツツとジュリー・ワグナーは、新たな記事を共著し、地区は変化するマクロの力に対応する必要があると主張した。『[The Next Wave of Innovation Districts](#)』という記事では、以下の点が強調されている：

大きなマクロの動向（グローバルな関係性のリスク軽減、経済の脱炭素化、そして人材の多様化の必要性）が、イノベーションディストリクトの役割と重要性を変革している。これらのマクロの動向は、大学、企業、スタートアップ、投資家、スキル提供者、政府、隣接するコミュニティが連携し、技術、金融商品、規制政策、ビジネスプロセスを革新することを求めている。このイノベーションへの期待は、異なる関係者が集まり、複数の次元、専門分野、そして多様なステークホルダーにまたがる幅広い解決策を発明・実証・適応することができるイノベーションディストリクトの価値をますます高めている。

現在、イノベーションディストリクトは「イノベーション・プリシнкт（Innovation Precincts）」、「イノベーション・コミュニティ（Innovation Communities）」、「ナレッジ・クォーター（Knowledge Quarters）」とも呼ばれ、21世紀型の場所に基づくイノベーションのモデルとしてますます認識されつつある。GIIDの分析によれば、世界中で150以上のイノベーションディストリクトがさまざまな発展段階にあることが確認されている。

なぜイノベーションディストリクトが必要なのか

GIIDが10か国23のイノベーションディストリクトを分析した結果、これら地区は、気候変動対策や感染症の抑制、労働力育成、少数派起業家支援など、緊急の社会課題を解決するために必要な技術的に複雑な研究に取り組む能力があることが明らかになった。

この研究では、イノベーションディストリクトの関係者がさまざまな学問分野や科学分野を横断して協力する能力も明らかになった。このような分野の融合は、企業が新しい実践や商業的・公共的価値のある製品を開発する際に活用するような効果の高い研究を生み出している。

企業、小規模な事業者、機関のネットワークが拡大するにつれ、経済的プレイヤーの物理的な集積は、より強力かつ意図的なものへと進化する。多様なプレイヤーと資産が特定の地域に集中するため、意図的にデザインされ、献身的なリーダーによる指導と適切な資金が伴えば、成長を加速させる力となり得る。この成長の加速効果として、以下のようなイノベーションディストリクトの役割が含まれる。

- イノベーションを推進し、経済成長を支える知識集約型企業を育成・誘致・定着させる。
- スキルや人材開発を含む新たな経済的アクセスへの道筋をつくり、包括的な「生涯にわたるキャリア支援」アジェンダを生み出す。
- 大企業・中小企業を問わず、企業の経済的・社会的影響を拡大し、生活賃金を伴う新たな雇用を創出する。
- 地区を動かす新しいエネルギー源の特定や、気候変動緩和策の拡充を含めた脱炭素化ソリューションを開発・推進する。

さらに、より高度で成熟したイノベーションディストリクトの活動に関するエビデンスは、これら地区が新たな雇用や企業を創出する能力を示しており、地域経済に大きな影響を与え、地域の税収基盤を強化している。本記事では、2002年に設立されたコーテックス・イノベーション・コミュニティと2001年に設立されたイノベーション・クォーターの2つの事例が取り上げられている。

コーテックス・イノベーション・コミュニティ

ミズーリ州セントルイスにある[コーテックス・イノベーション・コミュニティ](#)は、かつて荒廃していた市内中心部の工業地帯 200 エーカー（約 81 ヘクタール）を、起業・研究開発の商業化・創造性のための拠点へと変革した。2020年、[TEconomy Partners](#) は、過去 16 年間にわたるコーテックス・イノベーション・コミュニティの成果を評価した。この評価では、コーテックス・イノベーション・コミュニティがダイナミックな地域成長拠点へと発展したことが強調され、以下の統計が示された。

- 地区内で働く従業員は 5,780 人
- 企業数は 369 社
- 年間 21 億ドルの地域生産を生み出す運営実績

コーテックスに生み出された価値と周辺地域に及ぼした波及効果により、2004年から2018年の期間において、コーテックスが所在する郵便番号エリアは、セントルイス大都市圏内の中で最も高い不動産価値の成長率（49.4%）を達成した。

イノベーション・クォーター

ノースカロライナ州ウィンストン・セーラムおよびフォーサイス郡周辺における[イノベーション・クォーター](#)の経済への影響は、2022年には16億6000万ドルを超えたことが、TEConomy Partnersによる最近の調査で明らかになった。[TEConomyの報告書](#)によると、以下の内容が示されている。

- イノベーション・クォーター内で、3,883人がフルタイムで働いている
- これらの雇用が波及効果を生み出し、間接的に4,427の雇用をクォーター及び周辺エリアで創出している
- イノベーション・クォーターおよびその周辺地域にこれまで投資された総額は8億7,600万ドル。

この経済影響調査は、ウィンストン・セーラムの未来を再構築するために多様なパートナーが数十年にわたって行ってきた取り組みを裏付けるものとなっている。この地区の開発は、ウィンストン・セーラムを成長軌道に乗せる上で最も重要なプロジェクトの一つであった。この経済成長は地区内への投資を促進するだけでなく、ウィンストン・セーラムを理想的な拠点として位置付ける価値提案を再定義した。

**マーク・オーウェンズ、グレーター・ウィンストン・セーラム社 社長兼
CEO**

アメリカで先進的な地区として知られるこれら2つの事例は、イノベーションディストリクトが地域および広域の成長を支えるために生み出せる長期的な経済的利益を示している。ただし、この成長は自然に起きたものではない。この統計の裏には、地域のリーダーたちの献身的な意思決定、州や市政府による積極的な関与、そして成長のための適切な条件を整えるための高度に戦略的な投資が長年にわたって行われてきた背景がある。

地域内でのイノベーションディストリクトの立地

イノベーションディストリクトは、地域および広域経済に深く根付いた存在である。グローバルに繋がりのある現代社会であっても、イノベーションディストリク

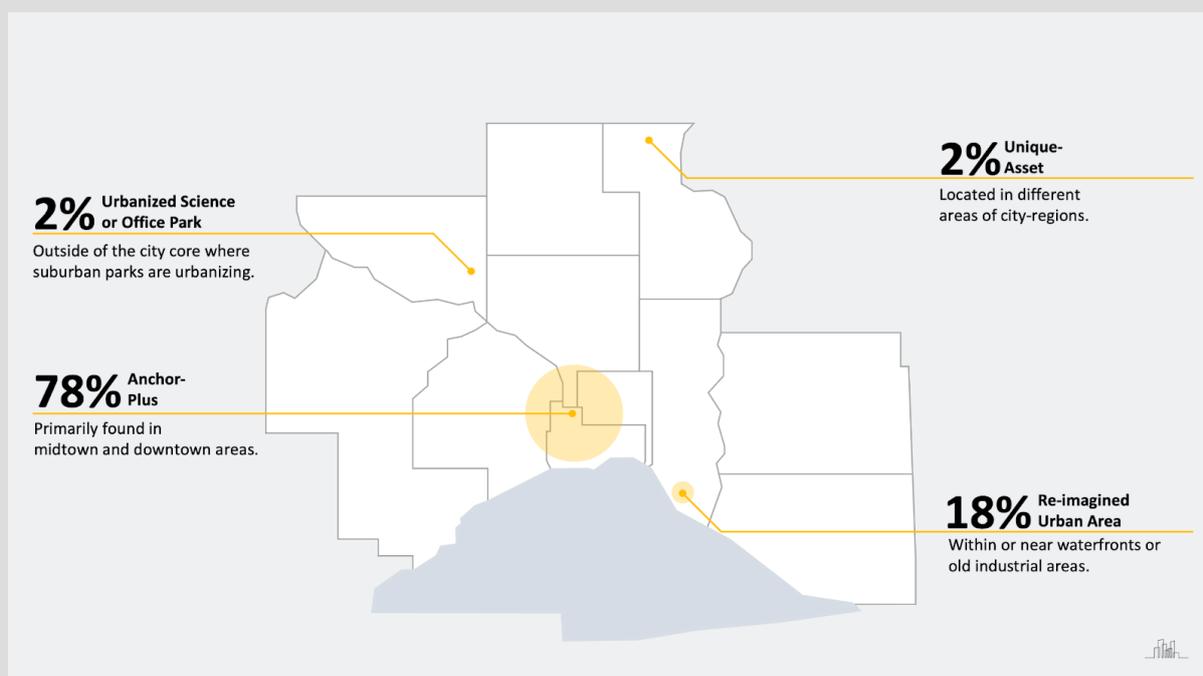
トの繁栄は都市圏内での物理的な接続性に依存している。地区が発展するためには、地区内にある組織が地域のイノベーション・エコシステム内の他の関係者に容易にアクセスできること、そして国内外の市場と効率的につながることが必要である。

GIID は、グローバルネットワークに属するイノベーションディストリクトが、それぞれの地域内でどのように位置付けられているかを理解するための調査を実施した。

『*The Rise of Innovation Districts (2014)*』では、地域内での立地に基づいてイノベーションディストリクトを3つのモデルに分類している。その後、GIID は各地の地区での経験を通じて新たなモデルを追加した。2022年に行われたGIIDの調査では、政府の研究機関などの新しい関係者が地区の取り組みを主導する結果として生まれた新たな分野を特定し、従来のリストを拡張している。

GIID は、以下イノベーションディストリクトモデルの出現を確認している：

- アンカープラスモデル
- 再構築された都市エリアモデル
- 都市化されたサイエンスパークまたはオフィスパークモデル
- ユニークアセットモデル



イノベーションディストリクトは主に都市の中心部に位置している。出典：GIIDによる45地区の広域地域内の位置に関する地理空間分析（2023年）

アンカープラスモデル

アンカープラスモデルのイノベーションディストリクトは主に都会の中心部に位置している。このモデルの地区は、都市の中心部において、基盤資産や各種アメニティが高密度に集中している点の特徴である。これらの要素の集積により、特にバイオメディカルや情報工学分野において、才能ある人材や革新的な企業を引き寄せる磁石のような役割を果たしている。

アンカープラスモデルのイノベーションディストリクトの特徴である密度は、交通アクセスやその他のインフラ投資によってさらに強化されている。GIIDは、このアンカープラスモデルの地区を35箇所特定しており、これはGIIDグローバルネットワークにおけるイノベーションディストリクトの4分の3以上を占めている。

再構築された都市エリアモデル

再構築された都市エリアモデルは、歴史的なウォーターフロント沿いやその近くで、工業地帯や倉庫地区が変貌を遂げている場所によく見られる。これらの地域では、地元のリーダーたちが使われなくなった都市部の工業用地を再開発し、イノベーションディストリクトを創出することで、新たな成長の道筋を描いている。

このモデルに該当するイノベーションディストリクトは8箇所あり、GIIDグローバルネットワークにおけるイノベーションディストリクト全体の約20%を占めている。

都市化されたサイエンスパークまたはオフィスパークモデル

都市中心部の外に位置する、都市化されたサイエンスパークまたはオフィスパークモデルのオフィスパーク地区は、従来分離され単一用途だった郊外のサイエンスパークやオフィスパークを包含している。隣接地域での人口密度の増加、交通の利便性向上、小売や飲食など多様な活動の導入を通じて、これらかつて孤立していた地域が統合された多機能型ハブへと進化している。

GIIDグローバルネットワークにおいてこのタイプに該当する地区は1つだけだが、多くの他の地区がGIIDと連携し、変革に向けた助言を求めている。

ユニークアセットモデル

ユニークアセットモデルの地区は、都市圏内のさまざまな場所に存在し、主に政府機関による数十年にわたる大規模な投資が特徴となっている。例としては、主要な大都市圏外や都市中心部の近隣に位置する高性能な政府の研究開発施設やその他の重要な施設が挙げられる。

GIID グローバルネットワーク内でこのモデルに該当する地区は1つだけだが、類似の地区がこれらのユニークな施設を活用する方法を模索するためにGIIDに相談を持ちかけている。

イノベーションディストリクトと新型コロナウイルス感染症パンデミック

過去10年間で、イノベーションディストリクトはより強靱な経済モデルとして台頭し、新型コロナウイルス感染症パンデミックのような困難な時期においても成長を続けてきた。従来型のオフィス地区とは異なり、イノベーションディストリクトは、ウェットラボ・ドライラボ、高性能コンピューティング施設、先進的な製造拠点といった高度なテクノロジーでコストのかかるイノベーション基盤、特化した高度な人材の集積、歩行者に優しいデザイン、そして整合性のある支援プログラムの強調といった要素の組み合わせによって成功を収めている。

以下は、パンデミック期間中にGIIDが観察した投資の一例である

- **MaRS ディスカバリー地区**（トロント、オンタリオ州）：2020年、トロント大都市圏へのベンチャーキャピタル投資額は10億カナダドルを超え、ヘルステック、バイオテック、AI分野で複数の取引が成立した。
- **ピッツバーグ・イノベーションディストリクト**（ペンシルベニア州、アメリカ）：公的および民間の関係者が、食料安全保障、住宅、医療サービスといった基本的なニーズに対応するため、同地区に数百万ドルを投資した。また、パンデミックの影響を特に大きく受けた地域の小規模事業者を支援し、公平な復興を促進している。
- **uCity Square**（フィラデルフィア、ペンシルベニア州、アメリカ）：州政府および連邦政府がこの地区の主要機関に投資し、特にワクチンの開発に注力している。

- **MIND**（ミラノ・イノベーションディストリクト）（イタリア）：政府および民間機関が、この地区の中核を担う多分野研究センターであるヒューマン・テクノポールに投資した。
- **ベエルシェバ・イノベーションディストリクト**（イスラエル）：ネゲヴ・ベングリオン大学とアリゾナ州立大学が主導するコンソーシアムが、エネルギーインフラのサイバーセキュリティセンター設立のための助成金を受け取った。また、同大学は気候変動に関する初のスクール設立のための資金も獲得した。

これらの例は、絶えず進化する状況の中で、イノベーションディストリクトが持つ持続的な価値と適応力を示している。地区内の集中した経済活動と協力的な環境は、引き続き地域および地方の経済成長を推進し、社会的利益をもたらすレジリエントかつダイナミックな経済拠点としての地位を確立している。

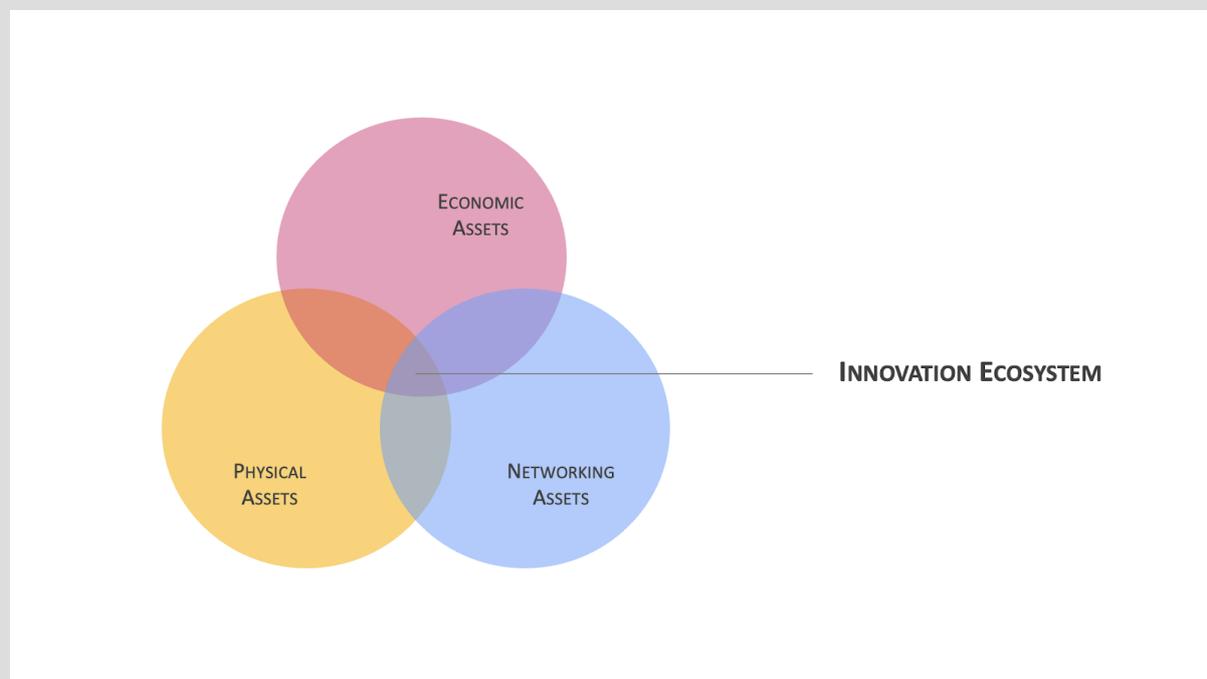
イノベーションディストリクトに共通する特性

特定の地域において、イノベーションディストリクトを発展させるためには、まず必要な基盤資産を持つことが求められる。これらの基盤資産には、大学や医療機関のような研究機関が含まれ、応用研究やトランスレーショナルリサーチ活動が行われていることが理想的である。また、徒歩で移動できる通り、オープンスペース、公共インフラといった「強固な基盤」を備えたアクセス可能な土地という物理的資産も含まれる。R&Dの協力を促進し、多様な関係者間で知識交換を加速し、教育やトレーニングの場を創出するためには、これら地理的エリアの物理的な変革がしばしば大規模であることがGIIDの分析により示されている。

イノベーションディストリクトの物理的改造には、物理的障壁の撤去、アクセス性の向上、そして物理的密度の基盤条件を変更することで、地区内でより多くの人々が住み、働けるようにする取り組みが含まれる。2014年に詩的に定義されたイノベーションディストリクトの特徴と同様に、GIIDの分析は、地区がまさに活動、資産、そして多様なアクターの「究極の融合」を目指していることを裏付けている。

この発見はブルッキングス研究所の報告書で述べた観察に立ち戻ることになる。イノベーションディストリクトには通常、経済的、物理的、社会的ネットワークングという3種類の資産が含まれ、これらが組み合わせることでイノベーション・エコ

システムが構成される。これらの資産は一般的にそれぞれ別個の種類として捉えられ、別々の資金調達の流れで支援されているが、イノベーションディストリクトのパワーは関係者・セクター・業界・空間を横断して共有されるビジョンから生まれる。



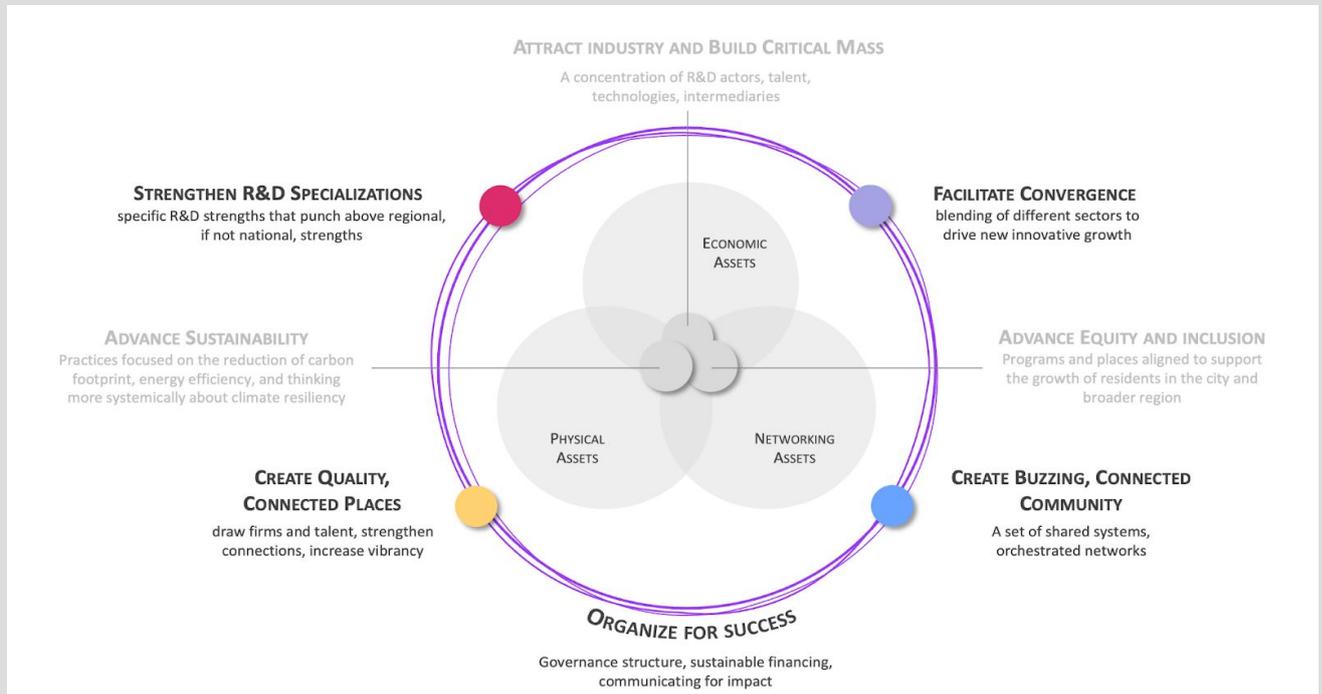
イノベーション・エコシステムを構築するには、経済的、物理的、ネットワーキング資産が連携して機能する必要がある。

GIIDでは、イノベーションディストリクトに関する研究と関与を通じて、3つの基本資産を高いレベルで調整された戦略・戦術に転換するためのフレームワークをさらに発展させてきた。各地区はこれらの戦略を活用・展開することで、独自の価値提案を強化している。これにより、各地区が他のイノベーションディストリクトやイノベーションの地理的拠点を凌駕する、独自の競争優位性を持つ理由が明確に示されている。

主な戦略は以下の通りである。

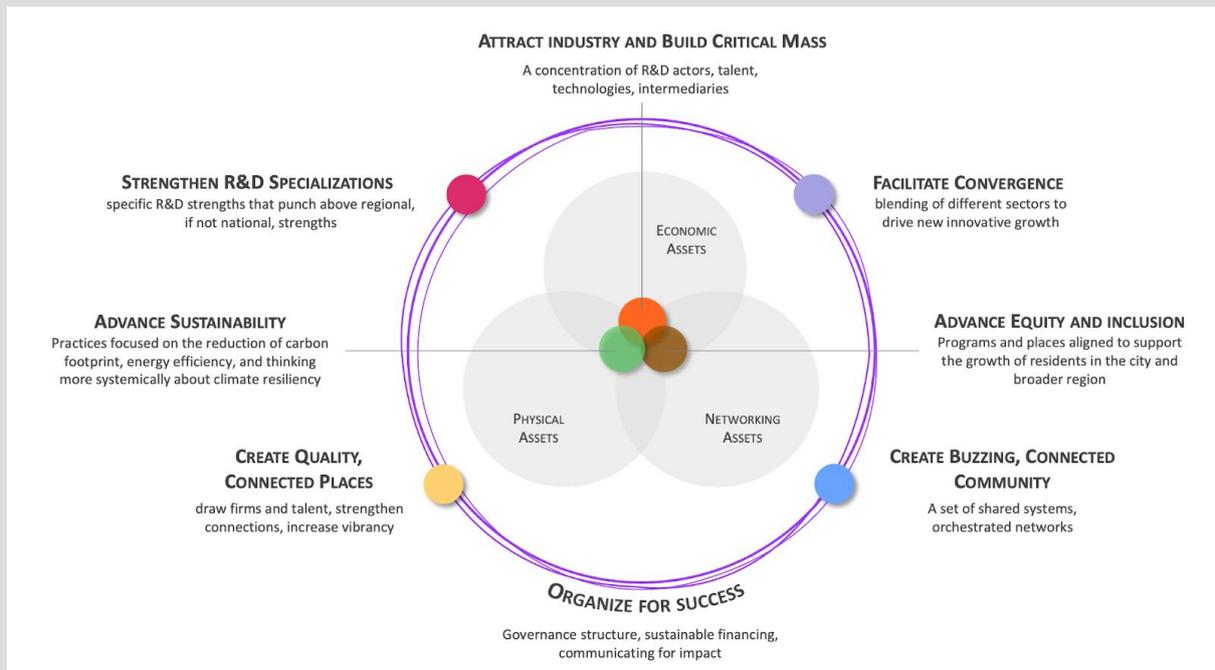
- **R&D専門分野の強化**：地域内・国内での優位性を明確にするため、地区のR&Dの強みや特化領域を具体的に特定する。
- **学際的融合の促進**：異なる分野の専門知識を組み合わせ、科学技術の画期的な成果を生み出すための基盤を形成する。
- **質の高いつながりのある場所の創造**：物理的資産を活用して、企業や人材を引き付け、つながりを強化し、活気を高める。
- **活気のあるコミュニティの形成**：地域社会の絆を育み、人々がその場所に留まり続けるようにするための共有システムやネットワークを構築する。

- **成功を目指した組織化**：すべての戦略を支える基盤を提供する。この戦略には、有機的なプロセスから意図的なプロセスへの移行が含まれ、ビジョンや具体的な目標の設定、ガバナンス構造の構築、持続可能な資金調達の実立（新たな収益源の開発を含む）が求められる。



多くの場合、数十年にわたる投資によって形成されてきた地区の強みやポテンシャルを明確にすることは、地区がどのように進化するかを示唆する重要な要素となる。そのため、地区のリーダーたちは、地区の独自の価値提案の一環として、これらの能力を特定することに時間を投資する必要がある。さらに、地区の価値提案は、地区やコミュニティリーダーの抱く志にも影響を受ける。GIIDが15カ国にわたる地区との連携を通じて確認した、最も挙げられる地区の目標は以下である：

- 高度に複雑な問題を解決するため、地区の研究開発やその他能力と整合性がとれている企業や人材の数を増加させる
- 都市や地域に広がる社会的、経済的、人種的およびジェンダー的不平等に取り組む上で中心的な役割を果たし、**公平な成長を実現する**
- 気候における先進的な研究開発・気候適応ソリューションの活用を含む脱炭素戦略のネットワークを通じて、**持続可能性を推進する**



イノベーションディストリクトの規模とその影響

こうした目標を実現する能力は、地区が地域内でどこに位置するか、また地域および地元へのアクセス性によっても一部決まる。地区の物理的な規模もまた、重要な集積を創出し、労働者や住民を近接させるために必要な多様な用途を発展させる能力に影響を及ぼす。

空間的なストーリーを理解するため、GIIDは10か国および4つの地域にまたがる23領域の地理空間情報を分析するのに約2年を費やした。以下の地図は、規模や場所の観点からイノベーションディストリクトの特徴的な性質を示している。

これらの地図は、規模の実際の違いを示すために同じスケールで作成された。関係者や活動の衝突効果を達成するために、大規模な地区では、小規模な地区が進化する方法と同様に、活動をより小さなノードや「重心」に集約して展開している。GIIDの研究によると、地区は実際に規模が大きすぎると、重要な密集の中心や多様性を生み出す能力を妨げる可能性があることが示されている。



イノベーションディストリクトは、それぞれ異なる形状や規模を持つ独自かつ特異な存在である。
 出典：GIIDによる地区境界の地理空間分析（2023年）

GIIDの調査によると、イノベーションディストリクトの平均規模は229ヘクタール（567エーカー）であり、個別の地区の規模は14ヘクタール（34エーカー）から818ヘクタール（2,021エーカー）まで幅広い。都市の中心部に位置する地区は、平均267ヘクタール（660エーカー）と比較的大きい傾向がある。

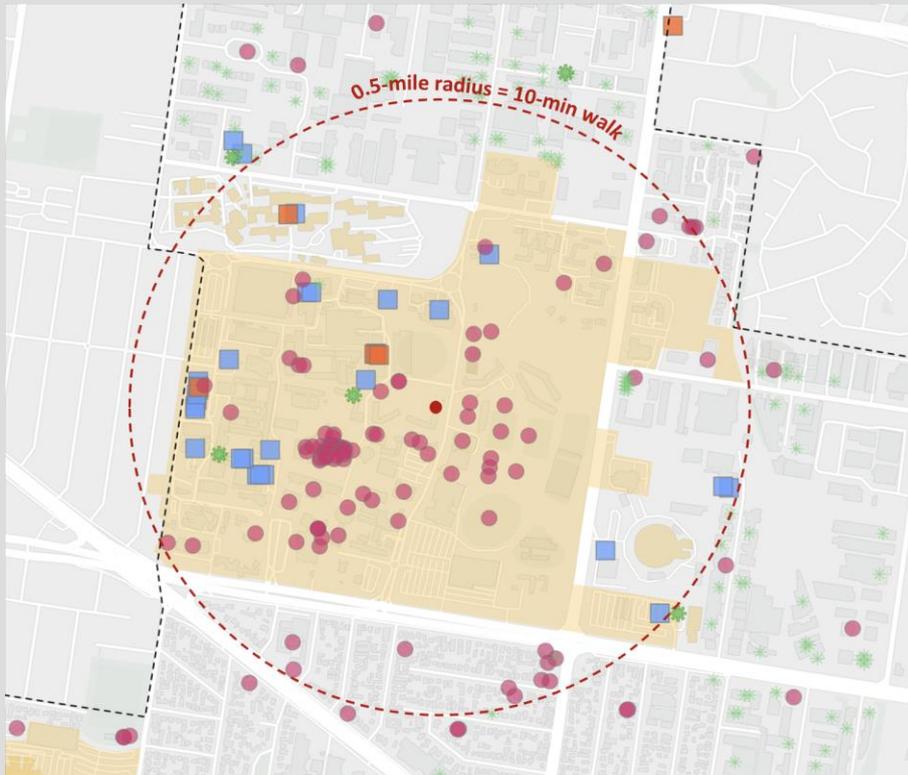
オーストラリアは、アメリカに次いで世界で2番目に多くのイノベーションディストリクトを有しており、地理的な規模においては平均して世界最大の地区を持つ。オーストラリアの6つの地区の平均規模は328ヘクタール（810エーカー）である。一方、アメリカにある8つの地区の平均規模は221ヘクタール（546エーカー）となっている。オーストラリアの多くの地区は、イノベーション・プリシнктとも呼ばれ、政府機関によって、または政府機関とともに定義されている。

GIID の見解では、ほとんどのイノベーションディストリクトの規模は大きすぎるため、十分な密度、物理的な近接性、アクセスの良さ、知識の波及効果を促進する場所ベースの投資の高度な調整といった、エコシステム成長に必要な条件を整える能力が制限されている。

別の調査結果では、イノベーションディストリクトの境界が開かれている程度を示している。開放性とは、地区への出入りが障壁によって遮られることなく、あるいは単一の道路やアクセスポイントに限定されることなく、容易であることを意味する。90%以上の地区が歩行者、自転車利用者、車の運転手、公共交通機関利用者にとってアクセス可能である。特に歩行者はこのアクセスの恩恵を受けており、1キロメートルあたり平均7つの連続する歩道があり、地区への多くのアクセスの選択肢を提供している。公共交通機関の利用者や自転車利用者も同様にアクセスのしやすさを楽しんでおり、通常1キロメートルあたり2つの異なるエントリーポイントがある。このような高いアクセス性は、地区が地域の景観と融和され、多様なユーザーにとって容易にアクセス可能であることを保証する。言い換えれば、これらの地区は都市の物理的構造に組み込まれており、研究や科学の孤立した島として存在しているわけではない。

最後に、GIID の調査では、各イノベーションディストリクトの独自性（例：異なるR&Dの専門分野、独特の物理的資産や条件、異なる組織の形態）が示された。この調査結果は、地区のリーダーたちを結びつける、経済的、物理的、社会的資産が小さく非常に歩きやすいスペースで力強く融合する「究極の組み合わせ」を達成しようとする取り組みと対照的だった。GIID の分析によると、この究極の組み合わせを作り上げるための地区開発活動の多くは、地区のキャンパスに隣接する土地や、民間・共同所有の土地で行われており、労働者や学生の密集した人口に近接していることや、応用R&Dへの繋がり恩恵を受けている。

隣接性の公式に対する興味深い例外が、ビクトリア州メルボルンにあるモナシュ・テクノロジー地区で見られる。この地区は、モナシュ大学クレイトンキャンパスを活動の第一拠点として特定している。同地区では、キャンパス内に主要な要素を構築し、企業、スタートアップ、ベンチャーキャピタルグループに対してより開かれ、アクセス可能な環境を整えようとしている。



モナシュ・テクノロジー地区は、主要キャンパスの土地を活用し、「究極の組み合わせ」を実現した。出典: GIIDによる地区の主要アクターと場所ベースの資産に関する地理空間分析 (2023年)

メキシコのモンテレイ市にあるイノベーションディストリクトモンテレイの場合、[モンテレイ工科大学](#)は、州および地方の関係者と連携し、463ヘクタール(1,144エーカー)に及ぶ広範なエリアの物理的および経済的な変革を推進するために10年以上を費やした。現在、モンテレイ工科大学はこの広域エリア内に新たな中心となるイノベーションディストリクトを開発し、より大きな経済的および公平な成長の原動力を生み出そうとしている。

これら2つの事例が示すように、イノベーションディストリクトは独自の方法で出現し進化することがあり、多様な成長の道筋を生み出している。GIIDは、研究を通じて、このような成長の道筋を記録し、体系化している。

イノベーションディストリクトを成長させ、形づくる主要なプレイヤー

成功するイノベーションディストリクトの基盤は、多様な組織—学術機関、企業、慈善団体、政府機関、金融機関、投資組織—に属する野心的なリーダーたちの融合

にある。地区のリーダーへのインタビューから、複数のステークホルダーが関与する際、根拠に基づき、インパクトに焦点を当てた共通のアジェンダを策定することで、その効果が一層強まることが明らかになった。

研究大学や医療機関などのアンカー機関は、イノベーションディストリクトの基盤となる存在である。これらの主要な組織は、優秀な人材を供給し、魅力的なパートナーシップの機会を通じて企業を引き寄せる役割を果たしている。

以下の図は、イノベーションディストリクトの成長と形成を支える主要なプレイヤーの例を示している。

R&D を推進するプレイヤー

大学・医療機関	“R&D の磁場”	企業
現在世界中で新たに形成されているイノベーションディストリクトは、これらの研究機関の近隣に位置しており、それが地区の DNA の重要な一部を構成している。	“R&D の磁場”は、地区のエコシステムに影響を与える応用研究開発を行う小規模な組織である。	最先端の製品、サービス、またはプロセスを創造または改善するために知識を開発または応用する組織は、R&D を促進するのに役立つ。

エコシステム構築団体

仲介機関	アクセラレーター・インキュベーター	新しい種類のアンカー
仲介機関とは、エコシステム全体を形づくる活動を企画・実行し、地区全体のパフォーマンスを向上させる組織を指す。例えば、スタートアップの成長を支援することをミッションとする場合もあれば、研究の商業化に向けて機関・企業の連携を強化する役割を果たす場合もある。	アクセラレーターおよびインキュベーターは、スタートアップや新しいアイデアの研究を支援する仲介機関である。	新しい種類のアンカーとは、伝統的なアンカー機関の定義を超えて重要な役割を果たす主体を指す。これには、地域の財団、人材育成組織、まちづくりの法人などが含まれる。

投資家

投資家	慈善団体	不動産開発業者	その他投資家
政府は、人・場所・アイデアのつながりを促進することで、イノベーションディストリクトを推進する。	個人、地域財団、その他慈善団体がイノベーションディストリクトに投資することがある。	不動産開発業者は、地区の物理的な景観を形成し、複雑性、密度、用途や活動の多様性といった特性を創出する。	イノベーションディストリクトに大規模な投資を行う企業、市民団体、金融機関がすべて貢献することができる。

ミッションドリブンな組織

ミッションドリブンな組織とは、地区の成長を支援することを目的とする、法的に独立した組織を指す。最も一般的な形態の組織は、非営利団体や保証責任のある会社である

イノベーションディストリクトの事例

世界中で 150 以上のイノベーションディストリクトが誕生しており、GIID はそのうちの 3 分の 1 以上と関わり合い、学びを得ている。

以下は、GIID の最新グローバルネットワークプログラム（2022 年-2024 年）に参加している 45 の地区の一覧である。

1. 16 Tech Innovation District（インディアナ州インディアナポリス、アメリカ）
2. 195 District（ロードアイランド州プロビデンス、アメリカ）
3. Advanced Manufacturing Innovation District（シェフィールド／ロザラム、イギリス）
4. Be'er Sheva Innovation District（ベエルシェバ、イスラエル）
5. BioDistrict New Orleans（ルイジアナ州ニューオーリンズ、アメリカ）
6. Brampton Innovation District（オンタリオ州ブランプトン、カナダ）
7. Buffalo Niagara Medical Campus（ニューヨーク州バッファロー、アメリカ）
8. Central Innovation District（デン・ハーグ／ハーグ、オランダ）

9. Children's National Research & Innovation Campus (ワシントンD.C.、アメリカ)
10. Cleveland Health-Tech Corridor (オハイオ州クリーブランド、アメリカ)
11. Cortex Innovation Community (ミズーリ州セントルイス、アメリカ)
12. Distrito de Ciencia, Tecnología e Innovación de Bogotá-Región (ボゴタ、コロンビア)
13. Distrito de Innovación de Ñuble (チジャン、チリ)
14. Distrito de Innovación Medellín (メデジン、コロンビア)
15. Gold Coast Health and Knowledge Precinct (クイーンズランド州ゴールドコースト、オーストラリア)
16. Haifa Innovation District (ハイファ、イスラエル)
17. Halifax Innovation District (ノバスコシア州ハリファックス、カナダ)
18. Innovation District Monterrey (モンテレイ、メキシコ)
19. Innovation Quarter (ノースカロライナ州ウィンストン・セーラム、アメリカ)
20. Ion District (テキサス州ヒューストン、アメリカ)
21. Keystone Innovation District (ミズーリ州カンザスシティ、アメリカ)
22. Klybeckplus (バーゼル、スイス)
23. Kenniskwartier (ナレッジ・クォーター) Zuidas (アムステルダム、オランダ)
24. Liverpool Innovation Precinct (ニューサウスウェールズ州リバプール、オーストラリア)
25. Lot Fourteen (サウスオーストラリア州アデレード、オーストラリア)
26. Lund Innovation District (ルンド、スウェーデン)
27. Malmö Startup District (マルメ、スウェーデン)
28. Melbourne Innovation Districts (City North) (ビクトリア州メルボルン、オーストラリア)
29. Innovation District (TBA) (カリフォルニア州サニーベール、アメリカ)
30. Monash Technology Precinct (ビクトリア州メルボルン、オーストラリア)
31. Nagaoka City Innovation District (長岡市、日本)
32. Norfolk Innovation Corridor (バージニア州ノーフォーク、アメリカ)
33. Oak Ridge Corridor Innovation District (テネシー州ノックスビル、アメリカ)
34. Oklahoma City Innovation District (オクラホマ州オクラホマシティ、アメリカ)
35. Oslo Science City (オスロ、ノルウェー)
36. Paju Medical Cluster (坡州市、韓国)
37. Phoenix Bioscience Core (アリゾナ州フェニックス、アメリカ)
38. Pittsburgh Innovation District (ペンシルバニア州ピッツバーグ、アメリカ)

39. Randwick Health & Innovation Precinct（ニューサウスウェールズ州シドニー、オーストラリア）
40. Tech Central（シドニー、ニューサウスウェールズ州、オーストラリア）
41. The LinQ（テキサス州マンスフィールド、アメリカ）
42. Tonsley Innovation District（サウスオーストラリア州アデレード、オーストラリア）
43. UNSW Launch（オーストラリア首都特別地域キャンベラ、オーストラリア）
44. Utah Tech Innovation District（ユタ州セントジョージ、アメリカ）
45. Westmead Health and Innovation District（ニューサウスウェールズ州シドニー、オーストラリア）

イノベーションディストリクトではないものとは

イノベーションディストリクトは、一枚岩のようなサイエンスパーク・サイエンス・サーキットとは対極にある存在だ。後者は主に車社会に依存したイノベーションの拠点であり、アクセスが難しく、多様な活動や地域コミュニティを基盤としたサポートが欠けている場合が多い。一方で、データによると、多くのイノベーションディストリクトは現在、より統合され多機能化するための物理的変革を進めているが、目標とする規模を達成するためには、さらに多くの投資が必要であるという課題が残されている。

イノベーションディストリクトは、いわゆる「不動産事業」ではない。不動産事業とは、伝統的な不動産開発業者が短期的な利益を求めて行う投資のことで、真のイノベーションディストリクトを支える R&D 活動への関与がほとんど、あるいは全くない場合が多い。それに対し、イノベーションディストリクトは本質的に、知識集約型および補完的なサービスセクター全体で経済成長を刺激する、長期的かつイノベーション主導の成長を促進するよう設計されている。

この視点に基づくと、以下のような場所に根ざしたモデルはイノベーションディストリクトには該当しない：

- オフィスパーク
- 従来型のサイエンスパーク
- 個別の建物

以下に、オフィスパーク、従来型サイエンスパーク、そしてイノベーションディストリクトの主な違いを示す。いくつかのサイエンスパークは、より統合的で包括的なモデルへの移行を目指しているが、大多数は依然として従来型のモデルに留まっている。GIIDの研究では、各モデルがスペクトル上に位置し、たとえばサイエンスパークが他の資産や利点を含むことで、イノベーションディストリクトにより近い特性を持つ事例も存在することが示されている。

	オフィスパーク	従来型のサイエンスパーク	イノベーションディストリクト
境界 境界とは、イノベーションに富んだ地域やコミュニティの主体が、成長を加速させるための集合的なアイデンティティや野心を築いている場所を定義する地理的特徴を指す。境界は、資産・主体・特性が結集され、イノベーション・コミュニティ・経済への影響を増幅する地理的な範囲を示している。	☑境界の存在 オフィスパークは通常、明確に定義された境界を持つ。一般的に、限られたアクセスポイントを備えた独立した開発として設計されている。 ×多孔性 オフィスパークの境界は、周囲の道路やフェンスによって明確に示されていることが多い。	☑境界の存在 サイエンスパークは通常、より大規模なマスタープランによる開発の一部として指定されたエリア内に明確な境界を持っている。 ×多孔性 サイエンスパークの境界は、周囲の道路やフェンスによって明確に示されていることが多い	☑境界の存在 イノベーションディストリクトは通常、明確に定義された境界を持つが、それは固定的で制約されたものではなく、市場の変化や新たな意図に応じて変化することができる。 ×多孔性 イノベーションディストリクトの境界は柔軟で、周囲の都市構造とつながっている。

ビルディングブ ロック

ビルディングブ
ロックとは、イノベ
ーションを促進す
る環境を集中的に
形成する特定のアク
ターや場所に根
ざした資産の集合
体であり、多様な
個人間のシナジー
を生み出し、支援
的な構築環境や高
度なインフラを提
供する。

×関係者の範囲

オフィスパーク
は、主に大企業や
専門サービス企業
が入居する施設で
あり、他の種類の
企業の存在は限ら
れている。

×建造環境

オフィスパーク
は、主に伝統的な
オフィススペース
に重点を置いている。
そのため、低
層から中層のオフ
イスビルが多く、
広い駐車場を備
え、キャンパスの
ような配置が特徴
的である。

×接続性・アクセ ス性

オフィスパークは
郊外に位置し、主
に自動車でのアク
セスが中心であ
る。そのため、公
共交通機関の選択
肢は一般的に限ら
れている。

✓関係者の範囲

サイエンスパーク
には、ハイテク企
業、研究機関、そ
して時には学術機
関が混在してい
る。

✓建造環境

オフィスパーク
は、主に伝統的な
オフィススペース
に重点を置いている。
そのため、低
層から中層のオフ
イスビルが多く、
広い駐車場を備
え、キャンパスの
ような配置が特徴
的である。

✓接続性・アクセ ス性

サイエンスパーク
は通常、大学や研
究拠点の近くに位
置し、公共交通機
関へのアクセスは
中程度である。自
動車での移動が一
般的であるが、シ
ャトルサービスが
提供される場合も
ある。

✓関係者の範囲

イノベーションデ
イストリクトに
は、大学や医療機
関、スタートアッ
プ、既存企業、多
様な組織、地域住
民など、幅広いアク
ターが集積して
いる。

✓建造環境

イノベーションデ
イストリクトは、
オフィス、ラボ、
住宅、文化施設な
ど多様な用途を組
み合わせた空間を
重視し、柔軟で適
応性の高い設計を
追求している。

✓接続性・アクセ ス性

イノベーションデ
イストリクトは、
バス、電車、シェ
アサイクルなどの
都市公共交通シス
テムとよく統合さ
れている。これら
の地区は、歩行者
に優しく、アクセ
スのしやすさを考
慮して設計されて
いる。

基本的な要素

基本的な要素は、都市性の本質を包含するさまざまな属性で成り立っている。これらの要素は、イノベーションの地理とその周辺の風景を円滑に統合し、コミュニティが必要とするサービスを提供する上で重要な役割を果たす。継続的な活動と相互作用を促進することで、24時間365日活気ある環境の創出に貢献している。

×仕事

オフィスパークは、R&D関係者の存在が限られているのが特徴だ。R&D活動は最小限であり、革新的な研究よりも製品開発に焦点を当てることが多い。

×生活

オフィスパークは通常、住宅の選択肢が欠けており、従業員は他の地域から通勤している。

×遊びと学び

オフィスパークは通常、カフェテリアやフィットネスセンターなどの基本的な施設を提供しており、いくつかには教育施設も備えている。

✓仕事

サイエンスパークは、多様なR&D関係者を含んでいる。R&D活動は、基礎研究から応用研究、製品開発に至るまで多岐にわたる。

✓生活

サイエンスパークには、限られた住宅施設がある場合がある。研究者や学生のための住居を提供していることもある。

×遊びと学び

サイエンスパークには通常、会議センターや食事の選択肢などの施設があり、時には限られた教育施設も備えている。

✓仕事

イノベーションディストリクトは、R&D関係者や才能の豊かなエコシステムが密接に集まっていることが特徴であり、これによりパートナーシップを促進し、アイデアを市場投入可能な製品、プロセス、サービスに変換する。

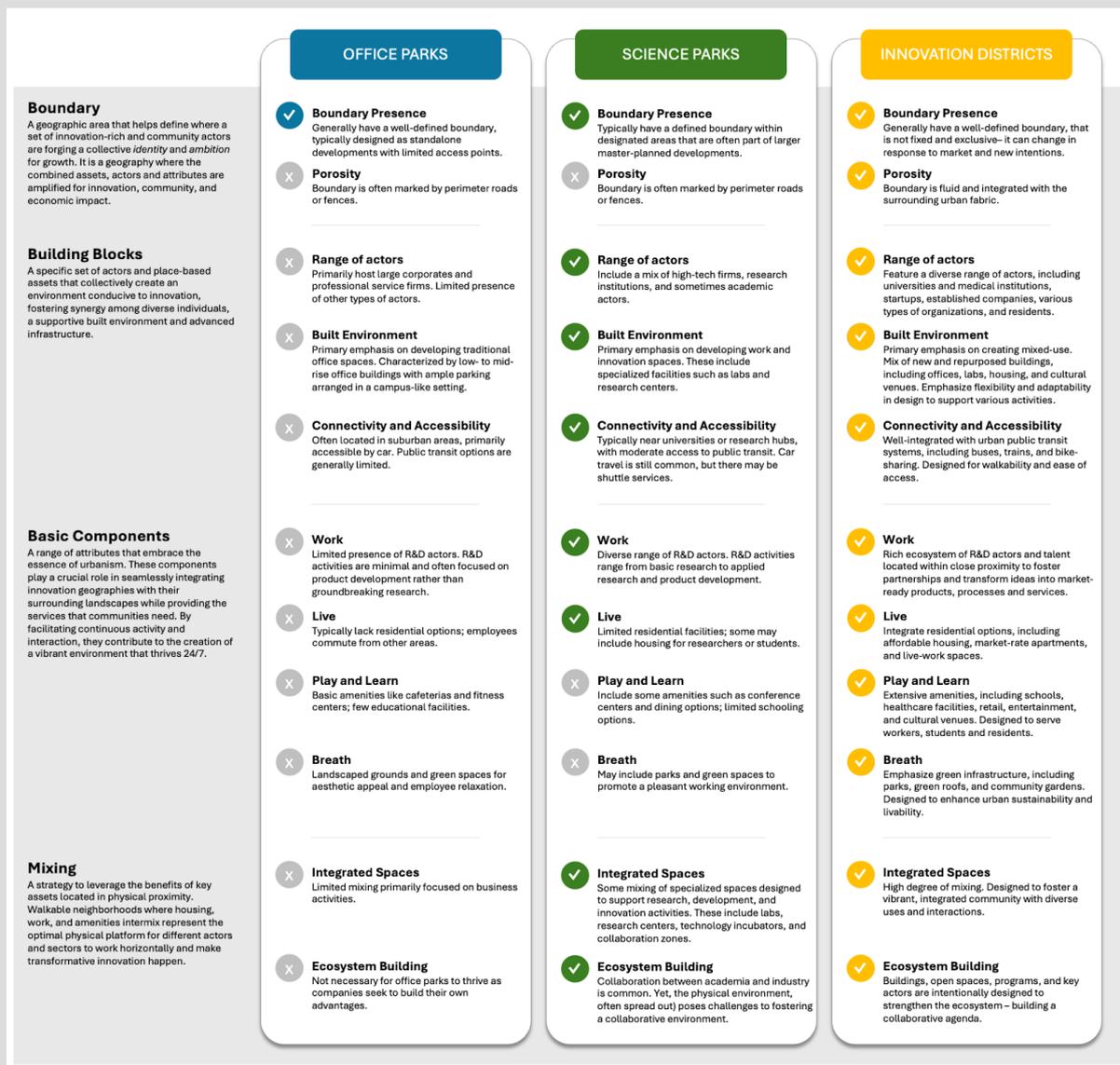
✓生活

イノベーションディストリクトは通常、手頃な価格の住宅、市場価格のアpartメント、住居兼作業スペースなど、さまざまな住宅の選択肢を統合している。

✓遊びと学び

イノベーションディストリクトは、学校、医療施設、小売店、エンターテイメントや文化施設など、豊富な施設が特徴である。これらは、働く人々、学生、住民にサービスを提供するように設計されている。

	<p>×グリーン オフィスパークには、景観が整えられた敷地や緑地があり、美的な魅力や従業員のリラクゼーションを目的としたものが多い。</p>	<p>×グリーン サイエンスパークには、快適な作業環境を促進するために、公園や緑地が含まれていることがある。</p>	<p>✓グリーン イノベーションディストリクトは、都市の持続可能性と住みやすさを高めることを目的として、公園、緑の屋根、コミュニティガーデンなどの緑のインフラや空間を重視している。</p>
<p>混合</p> <p>混合は、物理的に近接する重要な資産を効果的に活用する戦略である。住宅・仕事・アメニティが混在する歩行者に優しい地域は、さまざまなアクターやセクターが水平に協力し、革新的な変革を生み出すための最適な物理的プラットフォームを提供する。</p>	<p>×融和した空間 オフィスパークは、主にビジネス活動に焦点を当てた限定的な混合を提供している。</p> <p>×エコシステムの建物 オフィスパークが成功するためにエコシステムの構築は必須ではなく、企業は自らの競争優位を築くことを目指している。</p>	<p>✓融和した空間 サイエンスパークは通常、R&D やイノベーション活動をサポートするために設計された専門的な空間の一部を提供している。これらの空間には、ラボ・研究センター・技術インキュベーターなどが含まれることがある。</p> <p>✓エコシステムの建物 産学の協力は一般的だが、物理的な環境（しばしば広がりすぎていること）が、協力的な環境を促進する上での課題となる。</p>	<p>✓融和した空間 イノベーションディストリクトは、高度な混合が特徴である。この混合は、活気に満ちた統合されたコミュニティを育成し、多様な用途や相互作用を支援することを目的としている。</p> <p>✓エコシステムの建物 建物・オープンスペース・プログラム・主要な関係者は、協力的なアジェンダを構築する中で地区のエコシステムを強化するために意図的に設計されている。</p>



シリコンバレーはイノベーションディストリクトなのか

シリコンバレーがイノベーションディストリクトであるか聞かれることがある。一般的に、イノベーションディストリクトは近所の規模であるが、都市や地域の規模ではない。シリコンバレーは、カリフォルニア州の多くの都市や町にまたがっている。また、シリコンバレーはコンパクトな都市型モデルではなく、主に低密度で自動車中心の地域であり、人々は車で長距離を移動する必要がある。

対照的に、イノベーションディストリクトは物理的にコンパクトで、ほとんどの交通手段（徒歩を含む）でアクセス可能であり、複合用途の住宅・オフィス・商業スペースを提供している。

イノベーションディストリクトにおける 次の波

イノベーションディストリクトの次の波が勢いを増しており、これは世界経済における構造的変化を反映している。地区は、急速に変化する高いボラティリティを持つマクロの力に対応し、リスクを減らし、脱炭素化し、才能の多様化を進める必要に直面している。



de-risk

Regions are working to reshore, nearshore, and smartshore in response to highly volatile markets and geopolitical tensions.



decarbonize

Governments, institutions, and corporate actors are trying, if unevenly, to increase investment in systems and solutions that reduce human impacts on the environment.



diversify talent

Cities and regions seek to develop new educational and training systems to grow the workforce of the future.

ブルース・カツツとジュリー・ワグナー著「*The Next Wave of Innovation Districts*」より引用

次の波のイノベーションディストリクトは、複数の理由で特異である：

- イノベーションディストリクトに参入するセクターは、従来のライフサイエンス分野を超えて、軍事および民間目的のための先進的な製造業を含んでいる。
- 脱炭素化が重視される中で、クリーンテクノロジー製品を発明するための基礎的および応用的な R&D の活用を促進するとともに、地区内でのエネルギー発言と配電の再編成を推進し、炭素削減目標を達成しようとしている。
- 人材の多様化を求める声が、労働者のスキルアップを新たな生産活動に対応させ、長年にわたる不平等に対処するための包括的なイノベーションを推進するための幅広いメカニズムを意味している。
- 新しい地区は、製造業の企業、公共事業、大学の産業デザイン・工学部門、ハードテクノロジーのスタートアップなど、より広範なステークホルダーを引き寄せている。

- 地区は最終的に、クリーンテクノロジー、医療技術、防衛技術、その他のイノベーションの形態を支援するために、さまざまなリソースと資本化の伝統が関わる中で、より広範な投資家基盤を引き込もうとしている。

同時に、前例のない技術的進展とグローバルな相互接続性の時代に突入する中で、新たなパラダイムが登場している。それが「イノベーションディストリクトの集まり」と呼ばれるものだ。現在、多くの地域は複数のイノベーションディストリクトや類似の革新活動の拠点を誇っており、これは急速に進化する世界における学び・発見・イノベーションの重要性の増大を反映している。イノベーション・エコシステムの集まりを育成することによって、地域はその集合的な影響力を強化し、技術的および経済的変革の最前線に立つことができる。さまざまな地域のイノベーション・エコシステム間の相互作用は、全体的なイノベーション能力を高め、動的でレジリエント、かつ未来志向の都市圏経済を創出することにつながる。

GIIDはこの現象を分析しており、都市や地域と協力して、独自のR&D力・新興技術・多様化する人材基盤を考慮しながら、これらの地理的特徴を区別できるよう支援している。

結論として、イノベーションディストリクトの次の波のはまだ初期の形成段階にあるが、これらの地区は迅速に学び、新たなトレンドや強力な要請に迅速に対応できるようになるだろう。世界は複雑な場所であり、今後ますます難解になっていく。地区は、私たちの時代の課題に立ち向かうための合理的な一つの応答を、ハイパーローカルなレベルで示している。